

(1) 事業概要 発達が気になる子の心理検査に係る受診待機を解消し、こども一人ひとりの特性を十分な時間をかけて把握することで、早期発見・早期支援及び児の特性に合った適切な支援を行う。【協力病院：3医療機関4科(済生会総合病院(小児科、療育小児科)、市立静岡病院(小児科)、市立清水病院(小児科))】

(2) 支援状況

①支援件数

	2025.7-2026.3	2026.4	2026.5	2026.6	合計
実支援人数(人)	421	80	68	80	649
延支援件数(件)	882	149	111	155	1297

②支援件数の内訳

対応項目(件)	2025.7-2026.3	2026.4	2026.5	2026.6	合計
①聴き取り:本人、家族	286	42	31	42	401
②聴き取り:関係機関	47	9	7	10	73
③心理検査	318	56	34	50	458
④フィードバック:本人	60	9	8	14	91
⑤フィードバック:家族	141	19	28	31	231
⑥関係者支援	30	2	3	8	43

③受診理由(複数回答可)

対応項目(件)	2025.7-2026.3	2026.4	2026.5	2026.6	合計
A. 知的面／学習面の問題	259	41	36	43	379
B. 行動面の問題	268	58	48	49	423
C. 情緒面の問題	135	33	36	34	238
D. 家庭での問題	71	10	14	10	105
E. その他	66	20	17	14	117
F. 学校の勧め、就学／進学	98	22	16	28	164
G. 主治医／健診の勧め	-	-	-	7	7

(3) 評価 * 協力病院より

- ・院内の心理検査の待機期間が減少した
- ・心理アセスメントだけでなく、「今後の支援への方向づけ」も行える
- ・病診連携が増えた / 園や学校との連携が増えた
- ・保護者支援や心理的フォローがあり、医師の診療回数や時間の軽減に繋がる

(4) 現状と課題

- ・本人や保護者への聴き取り(全体の31%)が、心理検査(35%)と並んで多い複雑なケースや不安感の高い方のケースでは、複数回行うこともある
- ・園や学校からは、チェックリストや訪問時に情報を提供いただいており、その情報が本人に合わせた心理検査の選択やフィードバックに繋がっている

→支援を見据えた心理アセスメントには、心理検査だけでなく、上記内容が重要

(5) 現場から見えてきたこと

- ・病院受診や心理検査の必要性が、本人・保護者・関係者の間で十分な共有がなされていないため、本人や保護者に明確なニーズがないまま受検につながるケースが一定数みられる。
その結果、本来は情報収集／相談者の気持ちの整理に宛てられる「初回面談」が主訴の確認／当事業の利用に至った状況を整理する時間になりやすい
(例:所属先から早期の受検を勧められた 何を相談したら良いのか分からない)

- ・当事業(心理師2名体制)の面談待機期間が約1.5か月発生している。
本事業において重要な役割である、関係機関との調整や支援方針の共有などを丁寧に実施するほど、1ケース当たりの対応時間が増加し、当事業の待機期間の長期化につながる可能性がある

(6) 今後の取り組み

- ・協力病院の医療職との意見交換や研修を実施予定
(こどもの良いアセスメント方法、結果を支援に繋げるための連携について)